

# 3i研究会「情報を力に変えるワークショップ」 第5期事前ガイダンス

2017-08-07

アドバイザー（東京）野崎篤志

アドバイザー（大阪）大藪一



# 自己紹介

## アドバイザー（東京）



### □ 野崎篤志

- 日本技術貿易株式会社、ランドンIP合同会社シニアディレクターを経て、2017年5月に株式会社イーパテントを設立し代表取締役社長に就任。
- 2006年以降、主に特許分析・パテントマップ関連セミナーの講師を多く務める。発明推進協会・講師、東京理科大学院知的財産戦略専攻・非常勤講師、金沢工業大学院イノベーションマネジメント専攻客員准教授。著書に「特許情報分析とパテントマップ作成入門 改訂版」や「特許情報調査と検索テクニック入門」があり、その他寄稿なども多数。

## アドバイザー（大阪）



### □ 大藪一

- アイ・ピー・ファイン株式会社取締役専務執行役員 知財コンサルティング部長 兼務
- パナソニック株式会社にて研究開発及び知的財産権業務に従事。2000年からR&D知的財産権センターで戦略知財担当として、知財戦略の策定と推進に10年間従事。パナソニック退職後、アイ・ピー・ファイン株式会社の顧問を務め、平成22年8月に取締役役に就任、平成27年10月から現職に就任。
- 現在は主に、大手企業の知財戦略実践コンサルティングと他社動向調査分析、中国や東南アジア等特許調査業務等を行っている。

## アドバイザーの役割

- グループにおける活動の円滑な進行をサポートおよびメンバーへの指導
  - 各グループの研究活動の方向付け・サポート（リーダー会議やサイボウズを通じて）
  - アドバイザーの経験・知識等に基づく情報発信など
- 3i研究会メンバー（+OB・OG）の積極的な交流促進
  - 同・異業種交流による情報解析人材ネットワーク構築
- 3i研究会の活動を通じて、情報解析手法の「体系化」および「情報発信（INFOPRO・情報の科学と技術 など）」
  - 暗黙知の形式知化

**研究の主体はあくまでも参加メンバー  
（アドバイザーが手取り足取り指導するわけではありません）**

## 参考 | グループウェア「サイボウズLive」

4

The screenshot displays the Siboos Live web interface. At the top, there are navigation tabs for Home, Groups, My Calendar, Messages, Connections, and Account. The main content area is divided into several sections:

- Calendar:** A weekly view for April 14, 2011. It shows tasks for each day: 4/14 (Web regular meeting), 4/15 (Survey report), 4/16, 4/17 (Budget meeting), and 4/18.
- Task List:** A section titled "未完了の担当ToDo (2件 / 期限切れ 1件)" listing tasks like "予算の確認" and "競合調査".
- Chat/Activity Feed:** A section titled "佐藤 昇さんの更新情報" showing a post about a "Web定期会議" on 4/14, including a screenshot of a meeting agenda and a file named "1997\_ph02.gif".
- Right Sidebar:** Contains various utility links such as "サイボウズLive活用マニュアル", "作成したアンケート", and "スター付きの投稿".

サイボウズLiveは、グループチャットや掲示板、ファイル共有など、チーム運営に必要な機能がそろった「チームのためのグループウェア」

\* DB・ツールベンダー説明会にはSkypeを利用する場合があります

## はじめに－情報活用の重要性

情報検索・情報調査を行い、情報を集めても“活用”しなければ意味がない



1. どんな目的で情報検索・情報調査するのか？
2. 検索・収集した情報をどのように分析・解析するか？
3. 分析・解析結果をどのように役立てるのか（＝ゴール・イメージ）？



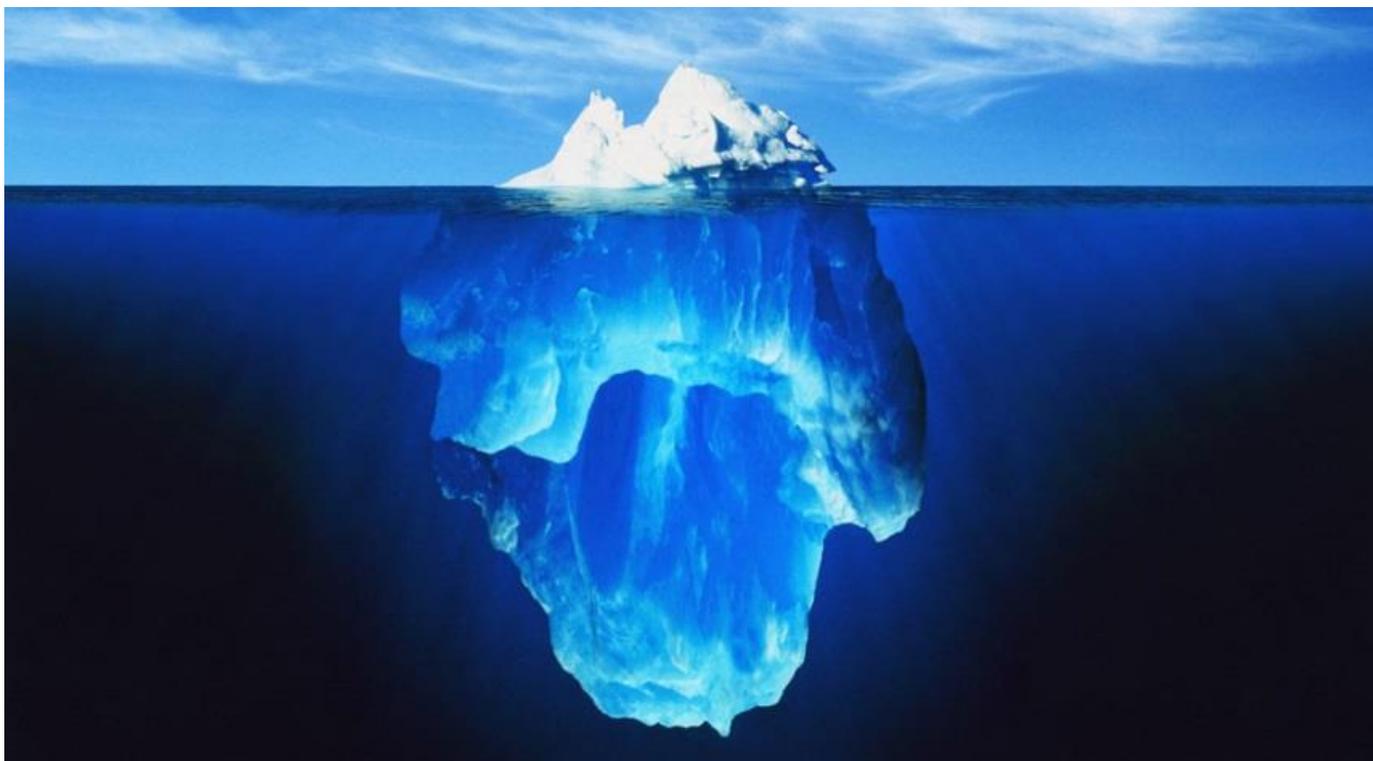
**1～3を理解した上で検索・調査  
⇒分析・解析を実施しなければいけない**

# 3i研究会の目的とスキルマップ（主に知財面から）

## (1) 知財スキル標準フレームワーク（全体マップと詳細マップ）

|                  |                       |                      |                    |             |            |              |
|------------------|-----------------------|----------------------|--------------------|-------------|------------|--------------|
| 戦略<br>(1)        | 戦略(1.1.1)             |                      | A: IPランドスケープ       |             |            |              |
|                  |                       |                      | B: 知財ポートフォリオマネジメント |             |            |              |
|                  |                       |                      | C: オープン&クローズ戦略     |             |            |              |
|                  |                       |                      | D: 組織デザイン          |             |            |              |
| 実行(2)            | 管理<br>(2.1)           | 情報(2.1.1)            | A: 情報開示            | B: 情報収集・分析  | C: システム    |              |
|                  |                       | 人材(2.1.2)            | A: 教育              | B: インセンティブ  |            |              |
|                  |                       | 法務(2.1.3)            | A: 営業秘密            | B: 規定       | C: 法的審査    |              |
|                  |                       |                      | D: 法令情報収集・分析       |             |            |              |
|                  |                       | リスクマネジメント<br>(2.1.4) | A: 係争対応            | B: 他社権利監視   | C: 他社権利排除  |              |
|                  |                       |                      | D: ブランド保全          |             |            |              |
|                  |                       | 予算(2.1.5)            | A: 策定              | B: 管理       | C: 資金調達    |              |
|                  | アウトソーシング<br>(2.1.6)   | A: 調査会社              | B: 特許事務所           | C: 法律事務所    |            |              |
|                  |                       | D: 翻訳会社              |                    |             |            |              |
|                  | 実務<br>(2.2)           | 創造<br>(調達)           | 調査(2.2.1)          | A: 先行資料     | B: 他社権利    | C: パテントマップ   |
|                  |                       |                      | 知的創造(2.2.2)        | A: 研究・開発    | B: デザイン開発  | C: コンテンツ開発   |
|                  |                       |                      | 創造支援(2.2.3)        | A: ブランド創出支援 | B: 発明支援    | C: コンテンツ創造支援 |
|                  |                       |                      |                    | D: デザイン創造支援 |            |              |
|                  |                       | 委託・共同研究<br>(2.2.4)   | A: 研究開発委託          | B: 共同研究     |            |              |
|                  |                       | 保護<br>(競争力の<br>デザイン) | ブランド保護(2.2.5)      | A: 商標権利化    | B: 事務      |              |
|                  |                       |                      | 技術保護(2.2.6)        | A: 国内特許権利化  | B: 外国特許権利化 | C: 国内事務      |
|                  |                       |                      |                    | D: 外国事務     | D: 品種登録申請  |              |
|                  |                       |                      | コンテンツ保護<br>(2.2.7) | A: 申請       | B: 事務      |              |
|                  |                       |                      | デザイン保護<br>(2.2.8)  | A: 意匠権利化    | B: 事務      |              |
|                  | 涉外(2.2.9)             |                      | A: 条件交渉            | B: ルール形成    | C: 権利処理    |              |
| 活用               | エンフォースメント<br>(2.2.10) | A: 侵害判定              | B: 侵害警告            | C: 国内訴訟     |            |              |
|                  |                       | D: 外国訴訟              | D: 模倣品排除           |             |            |              |
| 価値評価<br>(2.2.11) | A: 定量評価               | B: 定性評価              | C: 棚卸し             |             |            |              |

## 情報の種類 - 公開情報・非公開情報



公開情報  
(収集・解析)



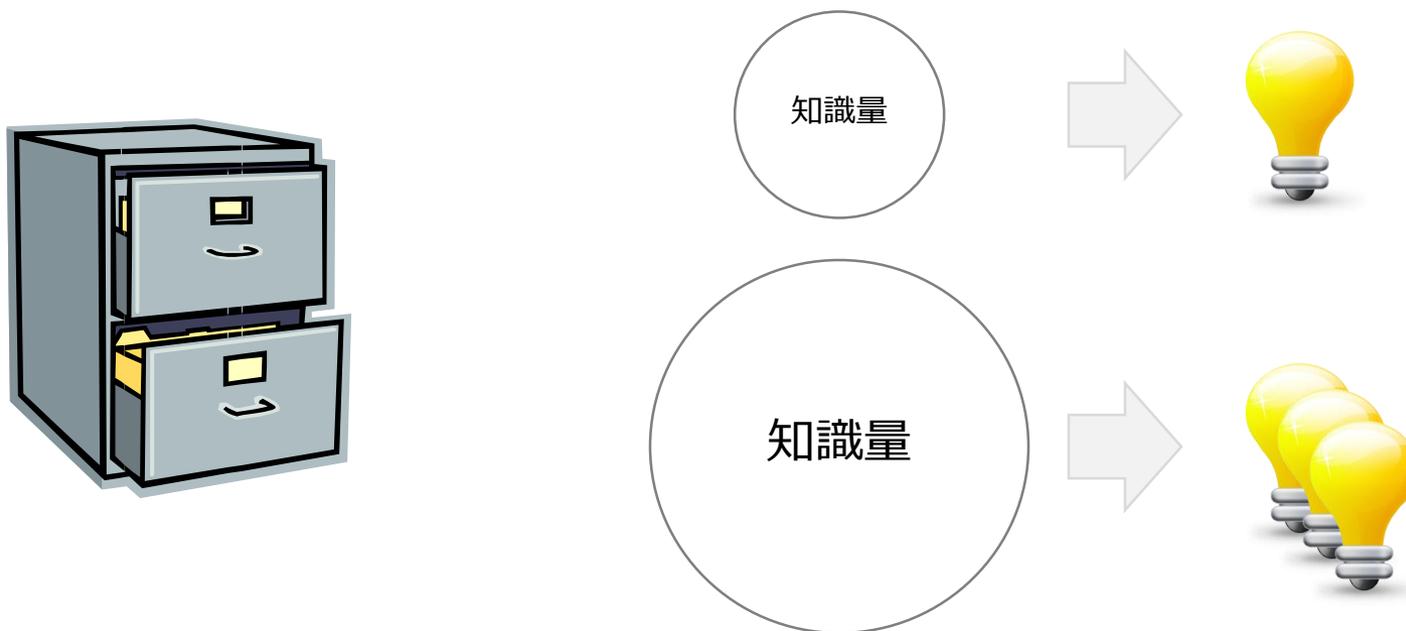
非公開情報

- 経験・知識・勘
- フレームワーク
- 集合知

収集できるのは“公開情報”。様々な公開情報を多角的に収集・分析して  
意思決定へつなげるメッセージ・インサイトを生成

# 集合知および仮説・ストーリー作り

## 知識・経験のストック・引き出し

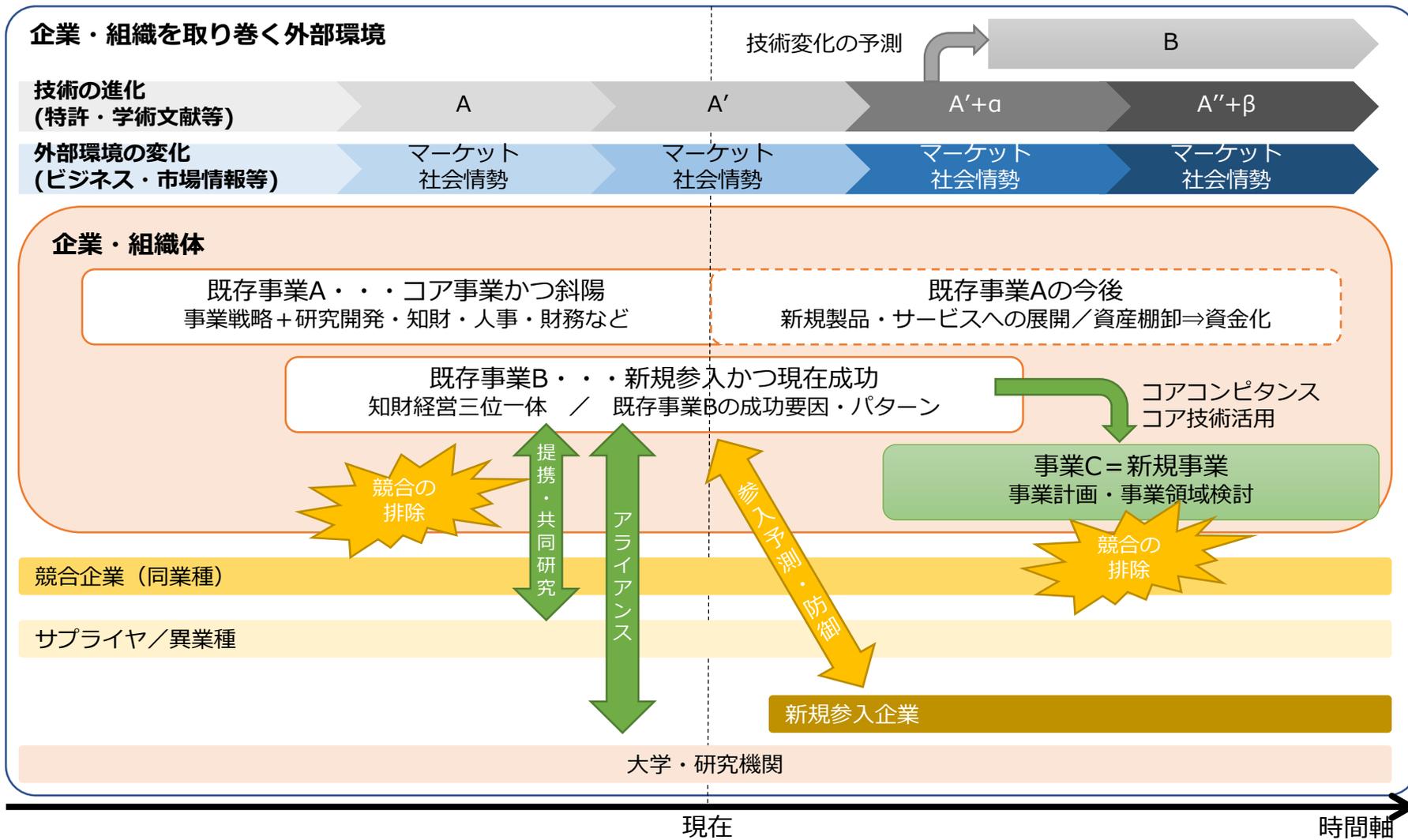


大嶋光昭氏(パナソニック・技監)

ひらめきとは、まったくの無から、いきなり有を生み出すような便利なものではありません。(中略) 何もないところからは何も生まれない、というのは鉄則です。

出所：大嶋光昭、「「ひらめき力」の育て方—だれも思いつかない、だからビッグビジネスになる」、亜紀書房

# 研究対象の全体像と情報活用の場面



## 第5期3i研究会・募集研究テーマ

10

□ 第5期は下記6つのテーマの中から希望テーマを選択し、グループを形成（1グループあたり5名程度）。**参加者の選択されたテーマごとの人数によっては第1希望以外のテーマとなる場合もありますのでご了承ください。**

1. 先端技術トピック（例：AI、3Dプリンター、IoT）における技術動向および技術動向予測
2. 社会課題（例：高齢化社会）を題材とした新規課題抽出
3. 企業数社を対象とした技術情報を用いたコア技術の特定手法開発
4. 自社コア技術を用いた新規用途・市場・顧客開拓
5. 特定企業の戦略的特許出願網の事例分析
6. コモディティ商品を事例とした戦略的特許出願網の構築手法開発

情報活用の場面に応じたゴールイメージ



考慮すべき事項=5W2H

|       |       |          |             |
|-------|-------|----------|-------------|
| When  | いつ    | Why      | なぜ          |
| Where | どこで   | How      | どのように       |
| Who   | 誰が/誰に | How much | いくら (費用・工数) |
| What  | 何を    |          |             |



ゴールイメージに則ったストーリー作り (仮説構築) が最も大切

# 研究活動スケジュール

原則東京・毎月第2木曜日午後@JST、大阪・毎月第3火曜日午後@大工大

| 月  | 野崎       | 大藪 | 議論内容（毎月研究会日の午前にDB・ツールベンダー説明会を予定）   |
|--|----------|----|--|
| ～2017/9  | —        | —  | <ul style="list-style-type: none"> <li>参加グループテーマに関する事前調査・準備</li> </ul>   |
| 2017/9    | 東京<br>大阪 | 大阪 | <ul style="list-style-type: none"> <li>リーダー・サブリーダー選定 および 詳細テーマ決定（遅くとも10月までに正式決定）</li> <li>各グループ内のサイボウズ運用ルールを決定</li> </ul>        |
| 2017/10  | 東京<br>大阪 | 大阪 | <ul style="list-style-type: none"> <li>決定詳細テーマに関する過去研究事例の共有、ラフストーリーの構築</li> <li>グループでの詳細研究領域の絞り込み および 利用データベース・ツールの決定</li> </ul> |
| 2017/11  | 東京       | 大阪 | <ul style="list-style-type: none"> <li>メンバーの分析結果の共有および深堀領域の協議</li> <li>ラフストーリーの軌道修正</li> </ul>                                   |
| 2017/12  | 東京       | 大阪 | <ul style="list-style-type: none"> <li>メンバーの分析結果の共有</li> <li>分析ストーリーの確定</li> </ul>   |
| 2018/1   | 東京<br>大阪 | 大阪 | <ul style="list-style-type: none"> <li>東京・大阪別々に簡易中間報告会（1グループあたり15分+Q&amp;A5分）</li> <li>簡易中間報告を受けて、最終報告会に向けたストーリーの最終調整</li> </ul> |
| 2018/2   | 東京       | 大阪 | <ul style="list-style-type: none"> <li>補足分析についてメンバーの分析結果の共有</li> <li>最終報告会スライド資料枠組み確定・作成（オンラインディスカッションも併用）</li> </ul>            |
| 2018/3  | 東京       | 大阪 | <ul style="list-style-type: none"> <li>最終報告会（東京・大阪会場同時Skype中継予定）</li> </ul>  |

備考：3i研究会としての正式な懇親会は初回キックオフミーティング後および最終報告会後の2回。ただし基本的には毎回研究会後に有志による懇親会を開催（予定）。

## 参加を検討されている皆様へ

- 現時点のスキルに関係なく、主体的にワークショップ活動を行っていただける方の参加をお待ちしております。
- 企業・組織においても個人1人で出来ることには限界があります。約1年間かけてグループで1つの研究活動を行い“互学互習”で研鑽しましょう。
- 同業種の方だけではなく異業種の方とのコミュニケーション・人脈形成も活動から得られるメリットです。

連絡先

E-mail : [contact@e-patent.co.jp](mailto:contact@e-patent.co.jp)

